

①調査に参加しようと思ったきっかけ

私たちの住む滋賀県には、固有種が 50 種以上生息している湖「琵琶湖」がある。滋賀県では日頃から環境教育として、琵琶湖の学習はもちろんのこと、近隣の川や公園、校庭の生き物に触れ、子どもたちは幼少の頃から自然豊かな環境で育っている。琵琶湖でも、昔はたくさんタナゴがとれたそうだが、現在は減少傾向にあり、ほとんどとれなくなってきている。なぜ琵琶湖でタナゴがとれなくなったのか、その原因をこの調査で学び、今後の教育活動に活かせるのではないかと考え、参加を決めた。



②調査内容で得た知識を応用した授業実施の概要

現在、1年生を担任しているため、生活科と結び付けて授業をしようと考えた。生活科では、10月に「あきとふれあおう」という単元で秋見つけをする学習がある。子どもたちは普段から生き物を見つけると教室に持ち帰ってくるが、世話をせずに死なせてしまうことがよくあるので、この単元に入る前にオリエンテーションとしてタナゴ調査での体験を話し、生き物の命を大切にしようとした。

③授業実施時の子どもたちの反応や感想

作成したパワーポイント（抜粋）	児童の反応・考えなど
<p>★岩手県でタナゴ調査をしてきたことを伝える</p>	<p>いわてけんはきいたことがあるよ！おばあちゃんがすんでいるよ！タナゴってきいたことある！</p>
<p>★生き物が姿を消している理由にはいろいろあることを伝える</p> <p>★琵琶湖にも昔はタナゴがたくさんいたことを伝える</p>	<p>びわこにもタナゴがいるんだ！</p> <p>びわこにこんなルールがあったんだ！</p>
<p>★生き物さがしに行くときの心得を確認する</p>	<p>いきものを見つけたよ！ここがおうちなのかな？そっとしてあげようね。</p>

④授業をしてみた感想

生活科でちょうど秋見つけをする時期だったため、生き物の扱いを指導する上で実体験を伴った話ができ良かった。琵琶湖にもタナゴがいることを知らなかったようで、驚いていた。身近な問題として子どもたちが話を聞いたことも良かった。今後、5年生を担任した時は、琵琶湖の学習をする際に、今回の体験をまた伝えていきたい。